

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立三田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（庶務担当）＝事務局長、副校長、会計年度職員 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭5名（教務担当、生活指導担当、進路指導担当、国際教育イノベータ推進担当、2学年担当）、
主任教諭3名（庶務部主任、1学年主任、3学年主任） 計11名
・評価委員の構成
副校長、主幹教諭（生活指導担当）、主任教諭（庶務担当） 計3名
- (4) 協議委員の構成
有識者4名（大学名誉教授、大学客員教授、進路指導研究会、元学校支援センター支所長）、PTA会長、同窓会会長、同窓会役員、地域住民代表、近隣中学校長、近隣小学校長、消防署出張所長、区防災課長、警察署生活安全課長 計12名（地域住民代表は兼任）
・評価委員の構成
有識者2名（大学名誉教授、大学客員教授）、PTA会長、同窓会会長 計4名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和7年6月20日（金）15時30分から17時 内部委員11名、協議委員10名
学校経営計画・現状と課題・各分掌等の取組計画説明、三田高校が目指すべき生徒像の将来像、意見交換
第2回 令和7年11月14日（金）15時30分から15時50分。各委員会を協議会に先立ち実施。協議会16時から17時15分 内部委員11名、協議委員10名
学校経営計画の進捗状況、分掌・学年等業務取組の中間報告、各委員会（評価委員会、防災教育委員会、学校サポートチーム）からの報告、今年度の学校評価アンケートについて
意見交換 * 学校保健委員会は後日、11/26に開催
第3回 令和8年2月6日（金）15時から15時20分各委員会を協議会に先立ち開催。協議会15時30分から17時 内部委員11名、協議委員10名
各委員会からの報告（評価委員会、防災教育推進委員会、学校サポートチーム）本年度の学校の取組、分掌・学年等の年度末総括報告、学校評価アンケートの結果及び分析、意見交換
※学校保健委員会は後日、2/10に開催
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和7年6月20日（金）協議会中で開催
令和6年度学校評価結果を踏まえた課題の確認、令和7年度学校評価の基本方針の確認、前年度学校評価アンケート及び結果（総まとめ）配布
第2回 令和7年11月14日（金）15時30分から15時50分 内部委員2名、協議委員4名
学校評価アンケート項目・質問内容の検討
第3回 令和8年2月6日（金）15時から15時20分 内部委員2名、協議委員4名
令和7年度学校評価実施状況・回収状況・集計結果報告、アンケート結果（総まとめ）分析・考察、評価結果のフィードバックについて

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価アンケート報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：865人 回収：854人 回収率：98.7%
 - ・12月 保護者全員 対象：865人 回収：653人 回収率：75.4%

・12月 教職員 対象： 50人 回収： 50人 回収率：100%

(3) 主な評価項目

・学校満足度、教育方針の理解、学習指導、施設・設備、進路指導、国際理解教育、生活指導、特別活動・部活動、安心安全な学校生活、防災教育等安全への取組、相談体制、地域連携、東京都教育委員会等指定事業、

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容を含む)

- ・アンケート回収率は、生徒・保護者とも上昇傾向であり、生徒においては過去3年間で最も良い。
- ・生徒の肯定的回答は全学年で増加し、平均81.6%と高水準であった。
- ・保護者も微増傾向であり、生徒に比べると控えめであるが安定した評価である。
- ・「入学満足度」は、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多い。生徒(96.6%)・保護者(96.3%)教員(100%)と極めて高い。
- ・「本校の期待する生徒の姿」の前文にある「スローガン」の認知度は、全体として上昇傾向にある。
- ・「授業への取組」は、毎年肯定的回答率が高い。生徒(91.6%)・保護者(85.5%)・教員(96.0%)ともに肯定的回答が多く微増している。生徒は真剣に授業に取り組んでいると評価している。
- ・「自宅学習への取組」は、教員では肯定的回答が一昨年、昨年と減少傾向にある。しかし、生徒約73.3%で各学年年々増加している。受験を控えている3年生では肯定的回答が高いが、今年度は92.7%で受験を控えた3年生の評価が今年度も著しく高い。
- ・「教員の教材・教え方への工夫」は、生徒3学年とも90%近い値であり、昨年一昨年より微増している。「教員の質問への対応」は、昨年度と同様大きな変化は見られなかった。教員では質問への対応も教え方の工夫も100%と共に自己評価が高い。生徒・保護者では質問への対応に対する評価の方が毎年高い。ただし、保護者の肯定的回答では、「わからない」が30%近くあるため、肯定的回答は1・2年生保護者は50から60%台に留まっており、生徒と比べて肯定的回答が約30%少ない。
- ・「施設・設備」は、三者ともに例年通り否定的回答が肯定的回答よりも多く、肯定的回答が三者共に全項目中最も少なく、否定的回答が際立って多い。教員の肯定的回答は僅か20%しかない。自由記述では、老朽化した校舎の建て替え要望、トイレ(匂い)、空調(教室ごとに調節できない、夏効き過ぎ、冬効かない、埃)等、改善要望が昨年度同様多かった。また、自習スペースや自習環境、ドアの建付け、体育館(雨漏り・滑りやすい床)、グラウンドの改善要望もあった。
- ・「校内整備・美化」は、生徒は肯定的回答が全体としてはここ3年間微増している。特に3年生が6割を超えている。しかし、三者共に他の項目と比べて肯定的回答は生徒・保護者が約60%であり、教員は肯定的回答が46%である。生徒が共に約50%、保護者が約62%と少ない。生徒では全項目中3番目に少なく、教員では2番目に少ない。自由記述でも、「毎日の階段掃除の必要性」「学校全体の美化活動の必要性」「施設・設備が古いことはやむを得ないが、学校全体の清掃状況の改善が図れるとよいのではないか」との指摘が生徒・保護者・教員それぞれからあった。
- ・「適切な進路指導」は、肯定的回答が教員は一昨年100%であったが、このところ減少傾向にある。生徒・保護者は、ここ3年間大きな変化はない。1年保護者で「わからない」の回答が毎年20%弱あるが、今年はやや減少した。3年生については、入学年度から見ると、保護者の「わからない」の回答が学年進行で大きく減少している。
- ・「将来を考える機会」は、教員で肯定的回答が減少傾向にあったが、今年度は前年より10%上昇した。生徒は、横ばいである。学年別に見ると、直近3年間、生徒・保護者共に1年生で肯定的回答が最も多い。現3年生の入学年度からの推移について見ても、生徒は1年次の肯定的回答が最も多い。
- ・「将来について考えている」は、ここ3年間、生徒、保護者共に肯定的回答は横ばいである。また、今年度は保護者の肯定的回答が学年進行に伴い上昇していた。
- ・「視野を広げる教育」については、教員では肯定的回答は昨年並みであった。保護者では、昨年度と大きく変わらないが、肯定的回答がどの学年でも多い。
- ・「基本的生活習慣」は、生徒全体・保護者全体では肯定的回答が昨年度より増加している。特に3年生は生徒・保護者とも9%増加している。教員は昨年より増加している。
- ・「規範意識」は、肯定的回答が生徒・保護者とも高いが、1年生の自己評価が低い。教員の肯定的回答は年々下がってきている。現状としての様々な問題に直面している教員だからこそそのような数値になっているのが推測される。

- ・「品位」は、肯定的回答が生徒・保護者は90%前後だが、教員は一昨年約84%だった値が今年度は約68%で大きく減少した。基本的な生活習慣、規範意識、品位と関連する項目であり、生徒・保護者・教員の三位一体で考えていくべき課題である。
- ・「学校行事」は、コロナ禍、その後も、肯定的回答は教員・生徒・保護者共に90%を上回っており肯定的回答が多い。
- ・「部活動」は、今年度、肯定的な回答も生徒・保護者・教員共に高い値であった。教員は100%である。
- ・「体罰・いじめがない」は、肯定的回答が毎年、生徒・保護者の全学年で90%を遥かに超え、生徒では全項目中毎年最も多く、保護者では2番目に多く、「わからない」の回答も少ない。教員ではここ何年間も100%かそれに近くやはり評価が高い。
- ・「防災教育」は、生徒全体では、前年度、前前年度よりやや増加傾向にある。毎学期の避難訓練等が実体験として感じられる成果かであろうか。保護者についてはわからないが40%を超え実態を把握できないことからの結果と思われる。教員についても肯定的回答が60%をやや超える程度であり、3者とも肯定的回答が大幅に減少したままである。
- ・「相談・連絡への対応」は、今年度生徒・保護者・教員共に肯定的回答は前年度並みで高い値であった。ただ、ここ3年間、保護者では「わからない」が20%以上あり、肯定的回答は生徒と比較すると20%以上少ない。
- ・「地域との良い関係」は、教員では肯定的回答が以前まで90%台で推移していた。昨年度、今年度は80%台に戻った。この設問は例年、生徒・保護者共に全設問の肯定的回答の平均を下回り、また、教員との評価の差が大きい項目である。保護者では昨年度に続き「わからない」が全項目中で最も多かった。
- ・「進学指導推進校の認知度」は、高い。ここ3年間、生徒では約80%、保護者では約90%台であり、生徒・保護者の認知度は高まっている。今年度は生徒約87%、保護者約90%でこの値は特に高かった。
- ・「英語教育推進校」から発展的に変わった「GE-NET20の認知度」は、既にネーミング変更以来、生徒・保護者共に肯定的回答があまり増加していない。
- ・各事業の成果は、いずれも保護者では「わからない」が多く、肯定的回答は生徒より大幅に少ない。
- ・「国際交流リーディング校の事業の成果」は、生徒の肯定的回答約67%、保護者は約50%である。上級学年になると肯定的回答は上昇している。保護者は実態を把握できないためか「わからない」の回答が約40%を占めている。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「入学満足度」の肯定的回答の内訳は、今年度、生徒、保護者において「よく当てはまる」が64%、68%「やや当てはまる」が32%、28%で「よく当てはまる」の割合が高い。一方「真面目に授業に取り組む」「自宅学習への取り組み」等など「よく当てはまる」よりも「やや当てはまる」が圧倒的に高い回答率を示している項目について、学校としては、肯定的回答の多さだけに満足せず、どの項目でも「よく当てはまる」、「やや当てはまる」等の内訳にも注目して分析・考察したい。
- ・「学校行事の取組」については、この項目の肯定的回答は生徒、保護者、教員共に多かった。今年度も、実行委員会を中心に生徒が主体となって学校行事に取り組んでおり、高い肯定的回答が得られたものと考えられる。本校の特長の一つであった海外修学旅行は今年度久しぶりに実現し、生徒にとってもグローバルな視点で視野を広げる機会となった。さらなる成果を期待したい。
- ・「防災教育等・・・」のここ数年間の肯定的回答の減少は、新型コロナウイルス対応により、1年生で実施していた宿泊防災訓練が5年前から中止となり、避難訓練はその年から放送による訓練となったことが大きな要因と考えられる。本校では代わりに1年生で総合防災訓練を3月に実施している。本校の総合防災訓練は、宿泊こそ実施しないものの消火訓練、煙体験、救急救命訓練等、今年度はさらに簡易トイレ等についても学ぶ。三田消防署と連携してこれらの実践的な内容を実施している。しいて言えば、この訓練が1年生のみでしかもこのアンケート実施より後であることが、全校的な肯定的回答の増加に繋がっていないのではないかと。敷地が狭く実践的訓練に制約があるが、生徒の意識に残る防災講話・避難訓練・防災訓練を繰り返し実施する等、防災・減災教育の推進を図る必要がある。首都直下地震、南海トラフ巨大地震等の地震災害や巨大台風の襲来、気候変動による気象災害にも備え、さらに、今後の課題として、災害時に期待されている若い力である高校生たちの力を地域にも生かすために、地域との連携を図る必要もある。

- ・「英語教育推進校」のネーミングからどういう学校か分かり易かったが、「GE-NET20」はネーミングから内容が分かりづらい。生徒・保護者そして本校への進学を考えている中学生やその保護者にも、どんな取組なのか発信の工夫が必要である。
- ・保護者の回答では、毎年同じように、地域との関係、東京都教育委員会等指定事業の成果、学習指導や教員の指導・対応、防災等に関する項目で、「わからない」という回答が多く、これらについては、保護者には評価が難しいと思われる。1年生の保護者会で「東京都教育委員会等の指定事業について」のプリントを配布しているが、あまり認知度は上がっていない。今後、それぞれの事業の取組を生徒・保護者への配布文書、保護者会、ホームページ等で紹介するなり、情報発信を分かり易くこまめに行い、情報の伝達を図りたい。
- ・今年度は、生徒会の生徒たちを中心として赤羽小学校を会場として行われた地域避難所設置訓練に参加、またダンス部が夏休み、赤羽小学校のサマースクールで小学生にダンスを教え交流、さらに、今年1月にはユネスコ委員・2年生有志が港ユネスコ協会主催のシンポジウムにパネラーとして参加、そして、3月末にはユネスコ委員会が近隣の中学生等にも呼びかけ、三田高生が自らシンポジウムを開き本校生徒や保護者及び地域の中学生と「平和と教育について」考える会を開くなど急速に地域との関わりが増えている。昨年度、1学年で実施した「地域探究」は、「生徒たちにとって近隣や港区を知るよい機会だった。」という声もあった。学校の特長や生徒たちの得意を生かし、地域との交流を図ることは、学校が地域から理解され、応援してもらえるきっかけにもなるのではないかと。今後、それらをたくさんある学校情報の公開の手段（HP、一斉メール等）で広く伝えて、より一層地域との共通理解を深めることも大切である。
- ・学校評価アンケートやその自由記述から保護者は、生徒たちの学校生活や部活等での様子を切に知りたがっていることが分かる。また、保護者は、学校行事の観覧や部活動の応援等を通じ学校全体の取組や様子を把握してきたことも改めて確認された。これらについても無理ない範囲で公開し、学校の新しい取り組み（GE-NET 20、探究学習等）の成果も一定程度発信していくとより学校に対する理解が深まると思われる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価の「入学満足度」「体罰・いじめがなく安心」「学校行事への取組」等の項目で肯定的回答が多い（いずれも90%以上）ことから、生徒・保護者の大多数は本校の普段の学校生活や学校行事の取組に満足していることが確認できた。一方、学校評価において否定的回答や保護者の「わからない」の回答が多い項目や自由記述、更に協議委員からいただく意見や助言、情報を通して、教職員が重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について認識を深めることができた。
- ・協議委員に本校の教育活動を理解していただくことにより、本校の教育活動への協力や理解をいただくことが引き続きできている。協議委員を通して近隣の小学校・中学校及び公共機関（警察・消防署等）と情報交換が少しでもできたことで、今後の本校の教育活動を考えるうえで参考になった。
- ・毎年、施設・設備の改善を求める声は著しく多い。経営企画室中心に、都に造改修計画や修繕要望を提出し、生徒の健康・安全面を最優先し迅速に対応してきた。今年度はグラウンド及び体育館バスケットゴール更新、音楽講堂屋上防水工事、各階トイレ修繕工事(20か所以上)、トイレ洋式化工事(5か所)、グラウンド石の除去工事など行った。これらは、学校評価アンケートの評価結果や自由記述の成果だと考えられる。今後も毎年少しずつであっても、順次、トイレの全面改修、空調設備等の改善に繋げたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校評価アンケートの生徒の肯定的回答が80%に満たない項目（例えば、主体的な自宅学習、校内美化、東京都教育委員会等指定事業等）に関しては、その要因に関して改めて考察・検討し、更なる改善を図る必要がある。
- ・「基本的生活習慣」「規範意識」「品位」に関しては、ここ3年間、生徒、保護者の肯定的回答の値に変化はないが、教員の肯定的回答は明らかに減少傾向にある。アンケート結果と教員の実感等も合わせて、考察する機会を持つ必要がある。
- ・校舎が古く老朽化していることは、既成事実である。「古いのと汚いのは違う」というコメントが協議会中にも学校評価アンケートの自由記述欄にも毎年見られる。本校の古い施設・設備をきちんと清掃し

て丁寧に使いたい。生徒の自由記述でも校舎への愛着や美化への取り組みを強調する意見も見られた。生徒会主導による校内のドアを塗りなおし再生させる取り組みなど、生徒たちの主体的な取組にも期待したい。

- ・「防災教育」は、宿泊防災訓練がコロナ禍で中止になって以来、生徒・保護者共に肯定的回答がそれ以前に比べ大幅に減少した。今年度、生徒・保護者の肯定的回答は昨年と比べ少し増加したが、依然として高い値とは言えない。授業時数確保と様々ある学校の取組の中で日程調整が難しい中ではあるが、地震や気象災害に対する防災・減災は、生徒だけに限らず喫緊の課題である。1年次実施の「総合防災訓練」は毎年工夫され成果を挙げていると思われる。さらに、年3回行われる避難訓練に工夫を凝らし、休み時間や放課後の時間帯の大地震を想定し、状況を変えての訓練や災害時の帰宅経路の確認等を織り交ぜる等、関係機関と連携し生徒の意識に残る避難訓練・防災訓練を繰り返し、いざという時に役立つ防災教育の推進を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価アンケートを活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・教務部・進路指導部・教科主任会が連携し、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいて編成した教育課程に基づく教育活動を実施する。
- ・戦略的な情報発信を展開し、本校の教育に理解と共感を抱く保護者・生徒の拡大を図り、「高い志の進路指導と国際理解教育、探究学習」の具現化に対する意欲がある生徒の獲得を目指す。

(2) 学習指導

- ・目標と評価を明確にし、基礎、基本の定着を図り、考えさせ、表現させる活動を通して、「主体的な学び」の実現を図る。ルーブリックを活用し、思考スキルの獲得を意識させ、自学自習の動機づけとする。
- ・「知的探究イノベーター推進事業」やここ数年間のイノベーター・ワーキンググループ（WG）の成果を踏まえ、WGを発展的に分掌化し、「新しい価値」を創造する探究学習を一層推進している。先進校訪問等の成果を生かし、本校の課題研究等の更なる確立を図る。
- ・Teams, Forms, OneNote さらには、Classi Note などを活用して、生徒一人1台端末に対応した授業を実践すると共に、ペアワークやグループワーク、Classi Note 内での意見交換等の話し合い活動を取り入れ、主体的な学習、学習の深化を図り、協働学習を推進する。
- ・国際理解教育を推進するとともに、SDGS の 17 の目標と 169 のターゲットを意識した教育活動を行い、エシカルな行動を実践し実現を図ろうとする態度を身に付けさせ、グローバル人材を育成することを指針として活動する。
- ・年2回(6月、11月)の授業研鑽期間を通して、教科を超えて教員の授業参観を行い、それを模範にしながら指導や評価の改善を図る。

(3) 生活指導・進路指導

- ・時間遵守の精神の育成、ルールとマナーの徹底、「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を励行する。
- ・生徒会・ホームルーム活動・学校行事・部活動等の組織運営について、生徒主体に運営する支援体制を継続し、望ましい人間関係、協調・協働の精神や連携意識の涵養を図り、帰属意識を育成する。
- ・進路指導部主導による意図的・計画的なキャリア教育を推進し、面談指導を充実させ、評価・改善を重視したPDCAサイクルの指導を実施し、諦めない心と向上心を育成し、「高い志の進路実現」を図る。

(4) 健康・安全

- ・生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図るとともに、体罰・いじめの未然防止を徹底し、異年齢交流を実施し、人を大切にする教育を推進する。
- ・地域機関と連携した全校での防災・避難訓練を実施するとともに、生徒による防災支援隊を組織し、自助・共助の精神の育成を図る。

6 「生徒中心に適切な対応ができ学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 12人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう 思う | どちらとも 言えない | あまりそう 思わない | そう思わ ない | 分からない | 無回答 |
|------|------------|---------------|---------------|------------|-------|-----|
| 10 | 1 | | | | | 1 |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議0回 企画調整会議0回

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校情報を様々な機会を通して発信していく。